



# おとひめ

令和7年12月 日( )



## 6年生にまかせて

山口小学校長 吉村 康介

少し前の話題になりますが、修学旅行説明会の折、6年生保護者の皆様に「最近、6年生に頼もしさを感じるようになりました」とお話ししました。名前を添えた挨拶を広めようとする姿、地域の方に花の苗をプレゼントしようと一生懸命作業する姿、そして下級生に親切に接する姿などから、頼もしさを感じるとともに、子どもたちの中に“相手意識”が高まっていることを感じているということをお伝えした次第です。

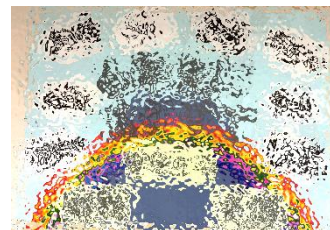
そんな6年生の頼もしい様子をもう少しご紹介したいと思います。清掃活動のことです。本校では、縦割り班による清掃活動を行っていますが、異学年が協力して掃除をするこの時間は、子どもたちの関わりや成長ぶりがよく見える時間であり、特に上級生の頼もしさを感じる時間です。

掃除の時間、6年生は「〇〇くん、塵取りの使い方わかる?」「〇〇さんはこれやって」といったように、自然な声かけで下級生に教えています。特に珍しい光景ではなく、山口小ではよく見られることなのですが、自分の作業をこなしながらも、周囲に目を配り、優しく指導する姿に、上級生としての自覚と責任感が育っていることを感じます。こうした姿は、これまでの山口小の子どもたちが代々引き継いできたものなのでしょう。掃除の時間を通して、学校の文化が受け継がれていることに感動します。

そして、伝統を引き継ぐだけでなくよりよい伝統を創ろうと工夫する姿も見られます。ある日のこと、目地の荒い床材に入り込んだ砂をきれいにしようと、「校長先生、掃除機使っていいですか?」と声をかけてきた6年生がいました。ほうきで一生懸命掃いてもなかなか砂が取れないので、時間内にやりきるために掃除機を使いたいという申し出でした。手間のかかる方法を厭わず時間いっぱい掃除をすることにももちろん価値がありますが、限られた時間の中でどうすればもっときれいにできるかを考え、工夫しようとする姿勢もまた、学校を大切に思う気持ちがこもっており、価値のあることだと感じます。

このように、掃除という日常の中に、子どもたちの優しさ、責任感、そして創意工夫があふれています。こうした活動が、本校の誇れる文化として根づいていること、最高学年である6年生が更に後輩たちに引き継ごうとしていることを、改めて嬉しく思います。伝統の「山口小あいうえお」の中に「掃除」は入っていませんが、掃除はまさに、伝統と呼ぶにふさわしい活動であると感じています。

さて、タイトルの「6年生にまかせて」は6年生の学級目標です。この目標のもと、6年生の児童はいつも「自分たちが下級生のためにできることはないだろうか、地域にでき貢献できることはないだろうか」と考え実践してきました。紹介した清掃活動の様子は、まさに「6年生にまかせて」を行動で示している姿です。また、地域貢献ということで言えば、先月も地域の福祉講演会のボランティアを務めてきたところです。こういった6年生が作り出した価値ある取り組みを、何らかの形で引き継いでいけないだろうかとは私は今考えているところです。



本年も本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。  
来年も子どもたちの笑顔と成長のために、職員一同力を尽くしてまいります。  
皆様、どうぞ良いお年をお迎えください。

